指標

地域医療対策

副会長　長瀬　清

はじめに

北海道の地域医療において病院の標欠問題は、早くから指摘されていた。

平成14年7月に明るみに出た札幌医大関連病院の名義貸しによる診療報酬の不正請求事件は、全道各地に波及し今なお検査が続いている。

国立病院はじめ、各地区での有力な民間病院が、保険医療機関の取消処分を受け、廃院に追い込まれ、地域医療の基盤を揺るがしている。加えて、本年4月から導入された、新医師臨床研修制度のために、大学が各地に派遣している医師の引き揚げが起こり、一層の混乱を招いた。

医師の診療科による偏在もあり、特に産婦人科や小児科医の不足は、深刻な問題を投げかけている。

このような状況から、厚生労働省医政局長よりへき地等病院医師確保支援特別対策実施の通知が出された。この処置で対象となる病院は、本道では今のところ僅か1病院のみで、実効はない。

1．国の対応

北海道に限らず、日本全国で同様の問題が生じていて、これに対して厚生労働省、総務省および文部科学省は、昨年11月地域医療に関する関係省庁連絡会議を設置、検討を始めた。平成16年2月26日、本連絡会議において当面の取り組みとして次のことをあげた。

1）地域における医療対策協議会開催促進
2）医療提供体制の再編・合理化、連携の推進
3）地域医療を担う医師の養成、確保の推進

また、今後の検討課題としては、次の5点があげられた。

1）へき地医療等の確保の計画的推進
2）医師需給見通しの見直し
3）地域医療を担う医師の養成の在り方の検討
4）地域における医師確保のための新たなシステムの検討
5）医師の配置を含めた医療提供体制の在り方の検討

2．北海道の対応

北海道は全国に先駆けて、平成16年5月北海道医療対策協議会を設置した。

7月14日現在、18の都道県で設立。設置予定をしているのは15県、検討中は2府14県となっている。

平成16年5月24日、道内三医育大学、市町村、道医等関係機関、道が集まり協議会の設置が決定された。引き続いて第1回北海道医療対策協議会が開催された。医師派遣の現況について三医育大学より報告があった。いち早く医師派遣の窓口を一元化した札幌医大は、平成16年1～3月で約1,800件の要請にほとんど応えられたが、この後の新規の要請に十分応えられるか否かが問題であるとした。北大、旭川医大ではこの時点では、一元化窓口を組織したばかりで実績はなかった。第1回目の協議会は派遣側、依頼側の現況、要望等が出されるにとどまった。地方自治体の医師確保の困難なことが強調され、道として如何に窮状を打開するか、その方策を求めるものであった。

第2回目の協議会は9月7日に開催された。三医育大学よりその後の状況が報告された。新規要請に対して応えられたのは、ごく僅かであり、その困難性が浮き彫りにされた。医師派遣の新たなシステムとして、大学個別に対応が出来ない場合、医師派遣連絡調整会議（三医育大学、市町村、関連機関、道により構成）を設置、そこで検

討決定する道が作られた。三大学協力しての医師派遣制度が功を奏することを切に願いたい。このシステムはさしあたって公立病院を対象とするもので、個人の一般市中病院は考えられていないことに問題がある。

3．地域医療を担う医師の養成について

大学により入学試験時地域枠を設定しているところがある。

札幌医大は、年20人の推薦入学を実施している。

入試における特別枠の設定について、北大は施行の意志なく、旭川医大は現在検討中という。また、札幌医大はへき地、地域医療支援教育実績を教員採用、昇任等の評価に加えることを検討中である。いま大学自体、地域医療に関連して変化しようとしている。

4．地域医療の確保および自治体病院のあり方等に関する検討会（総務省）

医療機関の再編・ネットワークについてのあり方が検討され、自治体病院のベッド、医師配置の無駄を省いて効率よくするとしている。これが市町村合併、二次医療圏の見直し、そして地域住民のコンセンサスを得るには曲折があろう。

5．熟練ドクターバンク

新聞・テレビ等メディアで大きく報道された。これは医師不足の解消にいくらかでも役立つことにならないかと、勤務医生活や開業医生活から解かれた、比較的時間的余裕を得た医師が、結構いるのではとの考えから、道および道医が実態調査を行った。結果、支援賛同者が多いことが判明した。そこで地域医療振興財団を中心に熟練ドクターバンクを創設、申し込みを開始した。現在までのところ、20数名の参加者が登録されている。これがへき地の医師の希望者増や長期固定に役立つことを願う。

まとめ

北海道ではこの2,3年で多くの病院が保険医療機関の指定取消を受け、病院を閉院せざるをえない事態に至っている。地域医療の崩壊に直面し、医師確保対策が図られているが緊急に間に合う妙案はない。過去長年にわたって成り行きに任せてきたつけがいま巡ってきた。医師の養成、科目のバランス、医師の適正配置等医療のあり方をあらためて考えなければならない時期にきている。

平成16年秋の叙勲・褒章受章者（北海道医師会員）

先般、平成16年秋の叙勲・褒章受章者が発表され、当会会員で以下の方々が叙勲の栄誉に浴されました。ここに受章者の方々のご功績をたたえ、謹んでご芳名を掲載させていただきます（敬称略）。受章者各位には、心からお祝いを申し上げます。

◇瑞宝中綬章

早坂　　滉（札幌医科大学名誉教授、教育研究功労）

前川　　隆（元国立療養所西札幌病院長、保健衛生功労）

◇瑞宝小綬章

櫻田　教夫（元北海道立衛生研究所長、保健衛生功労）

◇旭日双光章

續　　博（元三笠市医師会長、保健衛生功労）

渡邊　雅敏（全国ラジオ体操連盟理事、ラジオ体操普及功労）